



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四一九号）

小満 しょうまん

五月二十日

神楽祭の栄久舞 えいきゅうまい

五月の立夏から十五日目の小満です。草木が茂ってあたりに満ち始めるという頃、内宮前は森の新緑がまばゆいばかりです。

内宮では、ゴールデンウィークに春の神楽祭にちなむ雅楽の一般公開が行われました。雅楽を広く知ってもらおうと昭和二〇年代の初めから、年に二度行われるもので、春の公開は五日間あります。お天気の良い日には内宮神苑に特設舞台が設けられ、新緑の神路山 かみじやま を背景に披露される舞楽は雅やかです。春らんまんを絵に描いたようでした。

今回は、十二単姿 じゅうにひんえ の舞姫四人が神を手にして舞う「栄久舞」が披露されました。栄久舞は、第六十一回神宮式年遷宮を奉祝して平成五年に作られた神宮独自のものです。

あがめまつる 民 たみ のころを守りませ

伊勢の大神 栄え久しく

元神宮祭主・北白川房子様の御歌に、元宮内庁楽長東儀文隆氏 とうぎぶんりゅう が作曲し、同じく元宮内庁楽長の菌廣晴氏 くぬひろはる が舞を振りつけました。ゆつたりとした舞は厳かで、心が洗われるようでした。

先月四月、天皇陛下から第六十三回神宮式年遷宮についての「御聴許」 ごちやうきょ があり、いよいよ二〇三三年十月に向けての準備が各所で始まっています。遷宮ではご神体が納められる社殿が新しくなるほか、一五〇〇点以上の御装束 おんしやうぞく 神宝 ごんぼう も作られます。そして、遷宮を奉祝する歌舞も新しく作られ、遷御 せんぎょ の年には披露されることでしょう。

舞楽の公開では、平安時代の雅楽の名手とされる源博雅氏 ひろまさ が作曲したと伝わる「長慶子」 ちやうけいし という曲も。平安の曲、そして平成の曲が同じ舞台上で披露され、平和な世であることのありがたさがことのほか感じられました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏まちなまつり

「夏の楽しみ、夏までまつな！」を合言葉に本格的な夏の到来を一足早く感じていただきます。その昔、町のあちらこちらに登場した涼しげな物売りや見世物、そして大道芸などで梅雨の晴れ間の楽しいひと時をお楽しみください。

日 時／6月7日(金)～9日(日) 10:00～17:30 (催しにより異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

● 大道芸と紙芝居

紙芝居や、バナナのたたき売りなどの夏の口上芸、息をのむアクロバット・バランス、ジャグリング、バントマイムなど、昔ながらの夏の楽しみを皆様にお届けします。

日 時／6月8日(土)、9日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁内「太鼓櫓」、かみしばい広場

出 演／三ツ沢グッチ、石原耕、ももっち、ゼロコ、伊藤祐介 他

● 夏の風物屋台

梅雨が明けてからの夏が待ち遠しくなる物売りや屋台が並ぶほか、夏らしい遊戯も楽しめます。

日 時／6月7日(金)～9日(日)

場 所／おかげ横丁一帯

内 容／鮎の塩焼き、枇杷葉湯、鼻緒が選べる下駄、季節の絵手ぬぐい、初夏の盆栽、お菓子が射的の射的など

● 茅の輪くぐり

茅葺(ちがや)で作られた直径2mほどの輪をくぐれば、無病息災のまじないになるといいます。本来は神社において6月30日に行われる風習ですが、夏をちょっぴり先取りして行います。

日 時／6月7日(金)～9日(日) 10:00～17:30

場 所／おかげ横丁入口常夜燈付近

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 日本の神話⑦～古事記を中心として～

葦原中国を平定した天照大御神はこの国を治めるために孫の瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)を遣わされました。いわゆる天孫降臨です。御案内役は言わずと知れた猿田毘古神、降り立たれたところは高千穂の峰(今の宮崎県)ここから日向三代の神々のお話になります。火遠理命(ほだりのみこと)、鵜葺草不合命(うがやふきあえずのみこと)と物語は進みます。その間に天宇受賣命、木花佐久夜毘売など、おなじみの方々も登場です。今までと比べるとなんとなく人間味がでてくる神々、楽しみにしてください。

日 時／5月27日(月) 18:30～20:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

講座についてのお問い合わせ・お申込み/電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

ばな
どんど花

斎宮跡のある明和町には花菖蒲の原種、ノハナショウブが群生しています。「どんど」と呼ばれる取水口付近にたくさん咲いていたことから「どんど花」の愛称で親しまれています。濃紫色の美しい花を、三色の練り切りで表現しました。

いせなでしこ
伊勢撫子

またの名を「御所撫子」とも呼ばれ、その昔、斎王となられた皇女が遠く都を懐かしみ御所から移し植えたと伝えられています。薄紅色の羊糞をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

あお
青
うめ
梅

雨の恵みを受け、ここ伊勢の地でも青梅が目にも清々しく、実りの時を迎えようとしています。刻み梅入りの白餡を、外郎で包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。